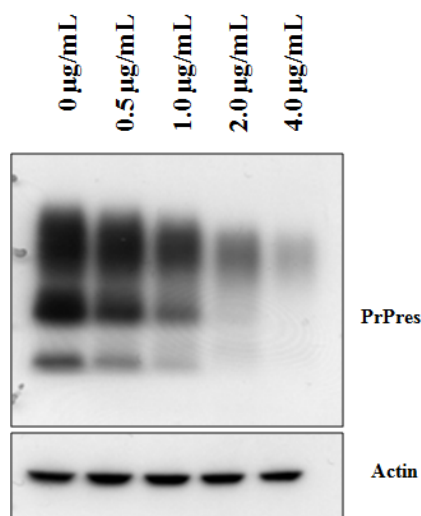


## プリオン病の治療予防に関する基礎研究

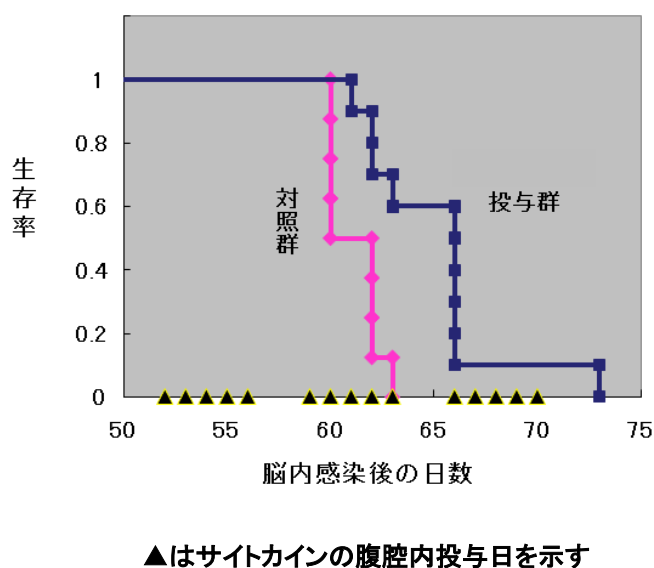
研究分担者: 東北大学大学院医学系研究科 堂浦克美

### 抗プリオン活性や治療効果をもつ因子群

プリオン感染細胞において  
有効な色素性化合物



脳内感染後期からの投与  
で有効なサイトカイン



### 解説

1. プリオン感染細胞において、抗プリオン活性 (PrPres形成を抑える) を発揮する色素性化合物を発見した。検討したすべてのプリオン感染細胞株で、濃度依存的にPrPres形成を抑えた。作用機序解明は今後の課題である。
2. プリオンを脳内感染させた疾患モデル動物において、効果の程度は低いものの感染後期の投与でも有効なサイトカインを発見した。投与量の最適化やプリオン株の影響検討は、今後の課題である。